

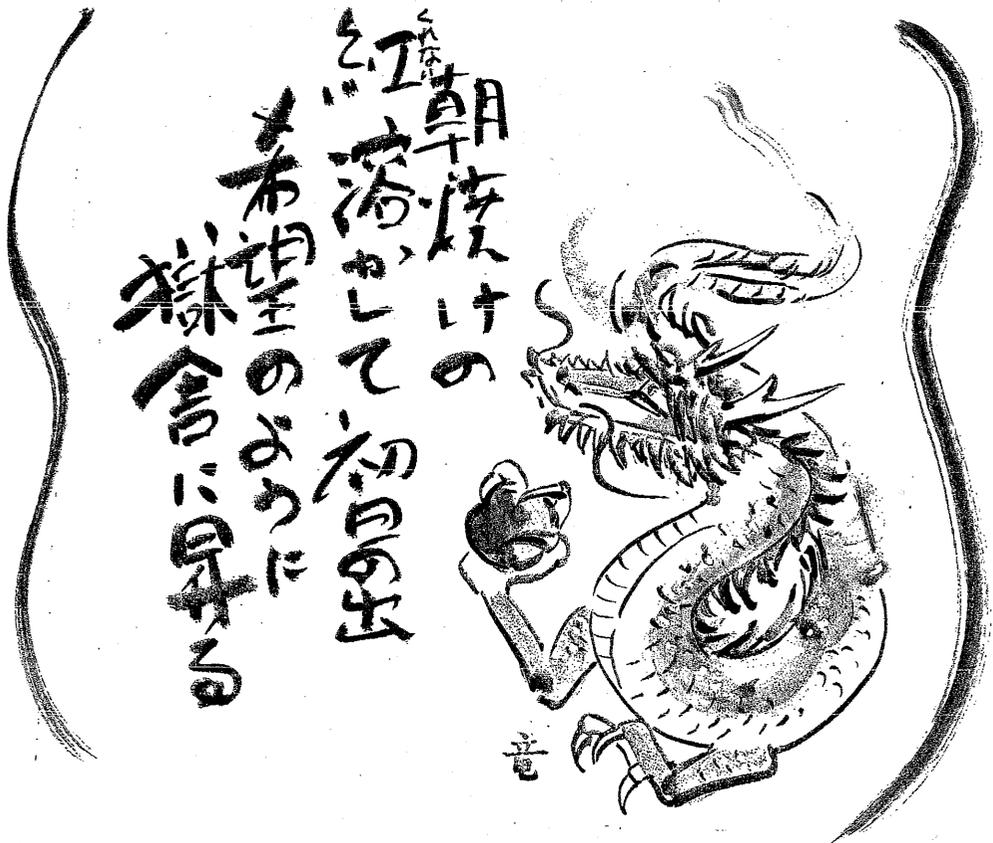
オリーブの樹

第109号

2012年1月15日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 新年のご挨拶 重信房子
- P 3 11月12月の歌 重信房子
- P 4 独居より 重信房子
- P13 アラブ物語 (17) シンガポール・クウェート作戦の時代 (3) 重信房子
- P19 詩 風の共和国 1971年・ビューフォート城から 重信房子

重信房子さんを支える会

新年のご挨拶申し上げます

昨2011年は特別な年となりました。大震災と大人災フクシマから日本の素顔がよく見えた年でした。1945年、日本の敗戦によって知った支配者たちの無責任・無謀さ以来、昨年ほど国民は権力者たちの無能・無責任・虚勢に憤ったことはなかったでしょう。その教訓も責任もあいまいにして、再び原発再稼働・輸出・武器3原則のなし崩しに加えて、「増税するしかない」予算を組み、突き進もうとしています。庶民の犠牲の上に、独占企業・官僚特権のままの支配理論が続いています。

一方世界では、自由の抑圧に抗し汚職や縁故の独裁権力に「もうたくさんだ！」と立ち上がったアラブの民衆の闘い、「我々は99%だ」とウォール街を占拠する怒り、去年の世界の激流は、3・11日本の変革と連帯とつながる新年です。

昨年も、私はみなさんのお便り・声援・励ましに支えられて治療を続けることができました。ありがとうございます。

今年、変化・変革の時代の真っ只中みなさんと共に進みます。

竜昇り天革まる年となれ 脱原発はわれらの狼煙



十一月十二の歌

重信 房子

雨あがり絡まり熟れたからすり夕日集めてます赤し
銀杏散るかつて千余が座りたる抗議もデモも広場の幻

カラカラと木琴ドレミファ音たてて桜落葉の舞う獄の秋

千日紅霜降る朝も首あげ誇るが如く色褪せもせず

月光にうかぶ獄塚にひもす鳥真夜に黒々祈りて動かず

忽然と冬のひと日がよみがえる霜の野に出でオリオン仰げば

ひたむきに切り拓きゆくチャレンジャー吾子に重ねし我が青春賦

冬の修羅乱舞する雪七重八重夢の傳さ君死に給う

魂魄の万余のねがいをいざないて大海原より初日が昇る



竜昇り天革まる年となれ脱原発はわれらの狼煙

重信 房子

11月14日 Nさんからお便りとともに、10・16の集会の様子、写真と共に知らせてくれました。それにすばらしい「旅日記」！ペイルート空港に着いた時から納骨の旅をわかりやすく、写真を時間と共に説明してくれて、私も一緒に歩いているみたいです。墓は新しく作り直され、納骨墓参に丸岡さんの好物だった仙台の「萩の月」「白松モナカ」が供され、20人近い友人が集まって、歌やあいさつが行われたこと。

Mさんからは、小学校での「劇団さざんか」の授業公演準備からNさんの絵・デザイン、広報での活躍の様子など、地域に根ざして一家で奮闘楽しんでいる様子。学びつつ観客500人の笑顔が楽しんだのですね！それまでの苦労もまた次の力になりそうですね。

11月16日 今日から第13クールの抗ガン剤治療が始まります。10時半過ぎに始まるので、ベランダの運動は10時からだったので出かけました。あ、風が冷たい！晴れているのに北風が冷たく吹き抜けて、冬の始まりを感じさせます。運動はそれでも気持ちよく、1500歩を早足で歩いて、ラジオ体操で30分。房に戻って10時半から診察室へ。10時45分から13時40分まで点滴。昼食はまだ菜がめぐっておらず、食べたのですが、やっぱり吐き気。でもこらえて、今日の点滴は終了です。

P・S 今、姉より電報。1・8日丸岡同志の妹さんが面会くださるそうです。

11月18日 今日は朝からそわそわしています。丸岡さんの妹さんの面会だからです。昨日「願箋」を提出しています。一枚は「面会時間の延長願い」もう一枚は「面会時携行願い」で、「伝えることの備忘のためのノートと筆記用具とNさんの『旅日記』と墓前の写真A4版一枚。これは妹さんが地名などわかりにくいので、それを見ながら話合うためです」と。11月17日昨夕に、処遇課の主任が、それらの許可を伝えてくれました。「ただし、面会が許可になった場合に限り。面会の判断は別なので」と言うので、「え、面会不可なんてありえるのですか？」とびっくりして聞きました。「上の判断でわかりませんが、『不可』『話の内容制限』などはありうる」と言うので不安になりま

した。でも「共犯関係」でもない丸岡さんの親族で、しかも丸岡さんはすでに亡くなられているので、会えないことはないだろうと思いましたが。もしかしたら丸岡さんの遺体引き取りのことなど、話の制限が付くのだろうか……と思ったくらいでした。

そして今日、午後3時前「告知があります」と呼ばれました。「ご存じと思いますが〇〇さん(丸岡さんの妹さんの名前)から面会要請がありました。知人、友人の面会は重要要件のみに限っており、妹さんの申請はそれに合致していなかったため、そのことを伝えると、〇〇さんも了解され、面会を辞退されましたので告知します」と、「第一統括」と名乗る刑務官より伝えられました。「え、重要案件で面会を私は要請しています」と言うので、「〇〇さんの申請は合致していません」と言うので、「〇〇さんはペイルートの納骨の様子や、死んだ兄がどんなふうにごろごろしていたか、一つでも知りたいはず。重要案件でしょう」十代の時に別れた妹さんに、私ができるだけエピソードを伝えなければならぬし、『携行願い』で『旅日記』を見せながら説明しようとしていたのです」と言うので、「重要案件を決めるのはあなたではなく当方であり、合致しなかったため説明し、諒解して面会を辞退された」とくり返し主張されてしまいました。「諒解」し「辞退」なんて……。もし、〇〇さんの方で、私が書いた切実なことを書いてないというなら、もう一度妹さんが『兄のエピソードを知りたい！納骨の様子を伝えたい』というなら、面会は可能なのか？と尋ねると、「それは、その時の判断。現在、当所が〇〇さんに説明したことを諒解なさって面会を辞退なさったので、それを告知に来たもの」とのこと、引き下がらずをえず、戻りつつ口惜しい涙があふれます。

妹さんこそ、辛い兄の思い出の二度と来たくない八王子施設に、速くから訪ねて下さった上に、面会も叶わず帰らざるとえなかったこと、本当に申し訳ない。

今日から冬期衣類の使用許可で、タイツやメリヤスの厚手下着、手袋着用許可、毛布一枚配られ、ひざに掛けるか、敷き布団に敷くのも可。もうズボン下、タイツ、ソックス2枚でも寒い八王子です。夕方資料交付。Yさんの送って下さった反原発資料は受け取れましたが、ペイルート報告は「検討中」で未交付。Mさ

んより「女性死刑囚」「まだまにあう」他救援などから資料受け取りました。姉からは「面会妹さんと会えましたか？」と便り。Kさんありがとう。Mさん、地域の人の自然に自発的に共同する姿に昔の「党」や「組織」の否定的な姿を捉え返しつつお便りくださいました。こんな一句も添えて。「わざと歩をゆるめてみたり冬に入る」

11月21日 昨日曜日は土曜日と違ってほかほか春日和でした。今日も晴天。

今日は「綱引き大会」で見学参加を予定していましたが、まだ副作用でしんどいので不参加としました。近頃は土日の郵便は速達、電報以外はその日に交付されず、週明けの朝に渡されます。姉の手紙では丸岡さんの妹さんは「お兄さんの件でそちらに用事もあったということで、丸つきり無駄足ということでないよう、少し気を楽にして」と。

明日は丸岡さんが逮捕された日。明後日はもう小雪の暦です。

寒さとは寂しさならむ冬の黙

面会の友また拒まるる

11月22日 秋晴れ。今日は副作用から体調が戻って食欲もあり、ちゃんと食べました。久しぶりに食べたせいか胸焼け。

今日はコーラスは辞退しTVは観ました。バラエティの「撮影のトリック」の話。ひな壇に並んだ騒々しい人たちが、司会の他にあれこれコメントするのは昔のTVしか見ていない私にはうとうしい。帰国して日本に「潜伏」していた時もバラエティはいつもチャンネルを消していた番組だったし。

ダウンロード資料、「キタコブシ」「アジア新時代と日本」その他雑誌や本。「はなかみ通信」ありがとう。「はなかみ通信」の各々の家計簿の話がなかなかおもしろい！TさんYさんより送ってくれた「重信房子のいた時代」これから読むのとお便り。「はなかみ通信」発行も大変ですね。もうすぐKさんと会えるとのこと。高校・大学の友人なんですね。私にとっては、みな、Tさんが結んでくれた友情です。

11月25日 23日の祝日は体調も良く、でも寒くてベッドに入ったまま資料や本を読んで過ごしました。Kさんからカラスウリのきれいな写真と共に、Tさん宅に泊まり込んでいっぱい話したと、楽しさが伝わるようなお便りです。Uさんからは来年リッダ40周年

を京大西部講堂でやるという話を、AさんHさんNさんMさんらで決めたとのことお便りで伝えてくれました。40周年なのですね。

「オリーブの樹」108号、「泉水国賠通信」も届きました。「オリーブの樹」が届くと(日誌は手紙の中に書いていて手元にない分)改めて読み返しながら、みんなの便りを味わうことができます。短歌も選んで下さって、絵もありがとうございます。白黒の絵なのに色彩があるように描いてくださって感激。きちきちバツタもコスモスも南天桐もみんな好き！今回の号のように、私の一本調子の日誌ばかりでなく、いろんな角度からの文字が載っているといいですね。「全共闘は闘うぞ」もちょっと笑って大いに真面目で、これからに更なるエールを送ります。田崎さんの文、当時を思い出させてくれる楽しいものです。本当にみな助け合い、前を向いて一緒に過ごした濃い時間、読みながら、あの時の自分の未熟さを思い返しつつ、友情に感謝です。点呼が終わったところに処遇第2統括の人が来ました。この人は前にNさんとの「交通禁止」を通告に来た人です。

「今日、Oさん、Gさんが、あなたに面会に来たが、面会の要件が重要な要件と判断しえず、不許可となったので、知らせます」とのこと！「今月2回の面会で、丸岡さんの妹さんが不可で、もう月末なので、誰か来ないかと月が終わってしまうのに変だな……」と思っていたので、やっぱり来てくれた！とうれしくなりましたが、それが会えないなんて！

何を基準に判断しているのかわかりませんが、「監獄法」が新しくなって、親族以外の友人「矯正厚生に役立つ」ことなどで面会基準が広がったはずでした。ところが、それが近頃逆に狭められているのは、官僚組織の通達があるらしいと言われてきました。ちょうど憤りて手にとった「泉水国賠通信」に、突如外部交通権を奪われた泉水さん、水田さんらの訴えが出ていて、身につまされます。八王子も悪化する方へ変化していくのでしょうか。長野刑のホリエモンの獄中日誌ではいろんな人とスイスイ会っているようだけれど。あーあ……。

11月28日 週末は面会でできなかったことが気になり資料読みも力が入りません。

日曜には私物箱を一つにする整理などしたので、今朝公判一式箱は返却。ちょうど巡閲にみえた処遇首席が前に検討中だったA4版の写真は許可とのこと伝えてくれたので、面会基準の変化についても訊ねてみま

した。4月以降から順次新しい人事で基準にそってやっているとのこと。10月までは多くの友人に会え、11月に会えなくなったのは4月からの変化のようでした。「重要案件」と判断しうる具体的な要件を示すことが大切とのこと。また面会時間は20分から30分以内(面会室が混んでいない限り)となったようです。Y、Mさん、Oさん、デジカメ歌人、Kさんら。お便りありがとうございます。Y、来年の選挙がんばれ！トップ当選、脱原発だね。Oさん3・11直後から「9条改憲阻止の会」や「生協パルシステム」、阻止の会の仲間の大口カンパなどでいわき市へとボランティア支援の行動ずっと続けておられたこと知らせてくれました。すごいパワーと「さすがし気分」というOさんの心意気が届きました。Mさん、地域での住民を主体とした生活や生き方、劇・PTA・子どもたちのパワーと素直な考えに学び、それを私が学んでいます。Kさんカレンダーありがとうございます。デジカメ歌人の小雪の便りの中の一冊。「踏まれるな小夏日和に誘われて舗道をおけらがせこせこ渡る」。いい情景です！「せこせこ」とく！

11月29日 午前中に姉の面会です。今月は2回も友人面会が不許可になってしまったので、その穴を埋めて姉が来てくれたものです。友人の「面会条件」がきびしくなり、「重要案件」と狭められたため、今後は具体的な「重要案件」でしつこく交渉してもらってなど伝えたり、伝言を託したり、差し入れてほしい本や細々と話しているうちに30分！「20分面会」が30分に変ったのですが、面会はいつも名残り惜しいまま話し足りない気分です。

今日はまた購入日用品が届き、12月1日から使えるカイロも手元に届きました。購入した手袋は明日になるようです。

友人たちから資料やお便り感謝。Mさんからは、Tさんは元気で12月3日、福井の「もんじゅ廃炉！全国集会」に参加されるとのことも伝えてくださって、Tさんの元気がわかって、ホ！「反・脱原発は正念場

を迎えつつあります。マスコミはもちろん運動でもあまり取り上げられませんが『9条改憲阻止の会』などの経産省前のテント座り込みはとても意義ある行動だと私は思っています。12月攻防の中で『テント』がどうなるかわかりませんが、再稼働阻止、全原発停止へ向かっていよいよ煮つめています」とのこと。それと水田ふうさんの個人紙「風」53号での泉水さん面会の「国賠訴訟」の様子が載っていること教えてくれました。ふうさんの力でここまでごぎつけ、みんなの力で訴訟に至ったこと、感謝ばかりです。

11月30日 今日で13クルールの投票を終え休業に入ります。やっぱり投票中は「おいしい」と感じるのはむずかしいので、休業になるとホッとして食もすみます。

午後はTVは辞退して姉に差し入れてもらった「ガンサポート」やUさんたちが送ってくださった「証言連合赤軍」No.8(永田さんと永別した会の報告)を読んでいます。永田さんにいろいろな想いを抱いたまま、「さん」付けで自然に呼んでこの日の司会を行ったというUさんの心は、きっと「革左」の多くの方々が感じたことなのかもしれません。私自身は一面識もありませんでしたが、当時の私たちの闘いの負の一面であった事実を心に刻みつつ読みました。私が逮捕され、東拘では永田さんと何度かすれ違いましたが、彼女は気付かなかったようですし、そのうち2004年くらいから彼女の房の前を通ると、いつも布団が敷かれていました。その後八王子に治療しに行ったので、見かけることはありませんでした。森さんが自殺し、リーダーとして彼女だけが背負うことを余儀なくされたさまでから、今では彼岸でゆっくりと捉え返しているかもしれません。

12月1日 雨。「オリエント神話」や「イスラームから見た世界史」他入りました。前から読みたかったものです。姉からは来年の干支の竜の絵。描こうとすると竜はむずかしい。

Mさんからは、11月28日の泉水さんとの交通回復を求めた国賠訴訟が岐阜地裁で行われた様子を原告の一人として伝えてくれました。

「午後2時より岐阜地裁302号法廷で第2回公判が開かれました。原告側からは水田ふうさんら全員が出席し、代理人の安田、山下弁護士も揃い、前回のM、Fさんの冒頭陳述に続きS、Yさんの陳述が予定されましたが許可されず、安田弁が閉廷前にうまく交渉し

て次回に10分ずつを許可されました。被告の国側の上申書が出され、それによると、面会というのは既得権ではない。前回面会できたから必ず次もできるというものではない。それよりも前回まで面会させていたことが刑務所当局のズサンな管理による誤りであり、その後正しく管理した結果不許可という裁量を下したという弁明です。自らの処置を誤りだと認めるようなことは前代未聞のウルトラCで、とても珍しいことと安田さんが後の説明会で言っておられました」と伝えてくれました。

12月2日 今日は昨日に続いて雨。八王子は5℃-10℃で都心と5℃くらい違うようです。午後やっぱり寒い！と初カイロを使っていたら、部屋に初のスチームが入りました。しもやけになるのを気にして、5時点呼後の書きもの作業は7時くらいでやめて、その後はベッド上で布団を足元に掛けて読書。ベッドで書きものは禁止です。

政治はT P P、沖縄をめぐっても増税も、内閣は本音を隠してのらりくらりと官僚のシナリオをすすめ、加えて失言の混乱。こんなデタラメ続きの東電や大企業、官僚や政権に対して、強烈に「変化」をぶち上げた橋下ら「維新の会」が閉塞感を突破してくれると大阪でも託した人が多かったのでしょうか。国民・市民・庶民に本当に必要な強烈な変革を脱原発から多様なネットワークとして実らせてほしい。来年こそ！

12月5日 3日まで寒く、昨日今日は晴天です。休み中のお便りは朝受け取りました。感謝。朝8時と食後1時間後に採血、今日は2回。

今日はCT検査もあり、昼食は検査の後です。2時Dr.の診察。今朝の血液検査の結果がもう出て、伝えてくれました。血糖値は異常なし、血小板も大丈夫、しかし白血球は2,080で増やすためのノイトロジン注射が必要で、今日から金曜まで5日間行う。腫瘍マーカーはまた少し上がり、CEAは10.0、CA19-9は少し下がって53、CEAは9月の6.9を底としてV字型にまた上がりはじめてしまいました。他の薬の選択肢も保険適用では「FOLFIRI療法」しかないの、もう少し「XELOX療法」を続けた方がよいとのこと。

お便りKさんから大好きなわびすけの白一輪の写真。亡き夫君も好きだった花と知りました。感謝。Mさんよりひき続いてのお便り。どこにいても問題意識旺盛ですね。いつも句と共に。“希望の色いっぱい小さき冬菇”“生きていてよかった師走明けの朝”いいですね！

句に誘われて私もKさんへ一首。“一輪に亡夫の想い重ねつつ白侘助の写真友より”

師走の街。友人たち、海の向こうの旧知の人たちを想いつつ、今年やりたかったこと、まだやりきれずにもう時間に追い抜かれつつ過ごしています。「小学校から一生懸命勉強しましたが、学ぶことの喜びは知らないまま少年時代をすごしてきました。学ぶことの喜びを知ったのは、老年にさしかかったやっとな今のことです。花の名を知ること、鳥の名を知る喜び、短歌や俳句を詠むこと、沖縄民謡をうたうこと、そんな活動に学びが一杯伴います」。自分は何も知らない、知りたいと渴望する愛をMさんのお便りで語っています。本当に！私も腫瘍マーカーにはやっぱり一喜一憂し、副作用に停滞したりしながら、歌も時も時事問題も学びつつ前向きに生きて新年を迎えなくちゃ！

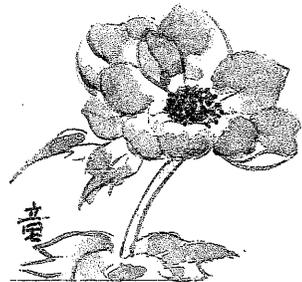
12月7日 今日は旧暦の大雪。朝から晴天。ちょうど週1回のグラウンド運動の日です。みんな週1回の外での運動を楽しみにしています。走ったり歩いたりより、おしゃべりを楽しんでる人もいます。歩きながら話しているうちにもう30分になりました。整列して病棟へ。

午後はTVは辞退して資料などの読み込み。「アイヤーム・アハリーNo.30」(パレスチナのアハリーアラブ病院を支援するニュースレター)にN先生のパレスチナ訪問記。ちょうど「土地の日」頃行っておられたのですね。先生のキャラクターのしっかり浮ぶととてもいい訪問記。こうしたものを読むと、「ああ、パレスチナにまだ行ってない！」と、なつかしい願望が熱烈に浮かびます。この気持は、一緒に過ごしたパレスチナの友人たち、キャンプの年寄りの話を聞きながら育った仲間たちとの、「行きたい！行けない！」という思いです。

他にも資料お便りありがとうございます。

12月9日 昨日は新聞でも日米開戦のパールハーバーなどの特集で、反戦を問う記念日を思い起こさせてくれます。アジア侵略をもっと語り、伝えるべきだと思いつつ読みました。

今朝起床したら雪！初雪にびっくりしました。スチームは入ってはず寒い朝！新聞の今日の八王子予想は1℃-7℃。やっぱり寒い！でも午後からはからりと晴天になりました。「創」や「紙の爆弾」「レコンキスタ」「解放」その他ありがとうございます。お便りも感謝。



Mさんのお便りでは、「12月6日に同志社大学の公開講座で、ドキュメンタリー映画上映しました。『社会変革に生きた二人の女性とその子ども達』というタイトルで、ドイツのエンリケ・マインホフと日本の重信房子のこと。映画監督はアイルランド人のシェーンさんで、娘の視点から革命家の母を見る、60年代70年代闘争を見るという構成で、それがこの映画を成功させていると思いました。シェーンさん自身が言われましたが、現在の社会にとって60年代闘争が持つ意味を問いたいというのが制作のモチーフということで、すばらしい映画でした。メイさんがとてもよく生きていて、『難しかったのは母親から自立することだった』、『母親たちがやったやり方では成功しないと私は思う。ジャーナリストの仕事を通して母親の信念に貢献することができれば嬉しい』、そして何と言ってもメイさんの口から出る『母親を誇りと思う』という言葉はすばらしい響きと説得力に満ちたものでした。」との文。さらに、たくさんの過大な評価を書いて下さいました。メイの発言は、ありがたいというか、耳が痛いというか、「革命」に夢中で、十分なことがしてやれなかったのに、ポジティブに捉えてくれてうれしいことです。でも私のために、メイの世界を狭くしてほしくはないのですが、「難しかったのは母親から自立することだった」と、そんなことを考えていたのですね。思い至らず生きてきて、はじめて捉え返しています。

今日で白血球を増やす注射は終わりました。週明けの血液検査でOKなら、また12/14からXELOX療法の第14クールが始まります。

12月10日 今日の日曜日は晴天。でも起床してカーテンを開けると、南に見える運動場が真っ白で、雪でも降ったのかとあやぶみだけけれど、霜が一面でした。もうほとんど緑のなくなった枯芝の上に降りた霜は寒さのせいで、午前中も白いままで。昨日の雪に入らなかった朝のスチームが、12月初めて入りました。八王子の気温は0-8℃の今日です。満月から皆既月蝕に変わるのを是非見たかったのですが、叶いませんでした。

12月12日 もうすっかり真冬。朝スチームが少し入るだけでほっとします。またカイロがあるので、大分助かります。足に感覚がなくなると、すぐカイロを当てて暖めたり足の裏にソックスカバーを履いてカイロを入れたり。外界も年越しの掃除・整理でしょう。ここも、あちこち年越しの気配です。カーテンを洗っ

たり、丸椅子を拭いたり、いつもの日常掃除以外の清掃が行われています。

今日は新聞も休刊。朝から採血して、14日(水曜)からの抗ガン剤治療第14クールがOKかどうか結果を待っているところです。午後整髪。夕方には友人たちからのお便り。姉からは15日義姉とDr.面談に来てくれるとのこと。

Tさんのお便り嬉しく読みました。うらやましい娘さんとの旅行。12/3敦賀集會のこと、それから12/6のドキュメンタリー映画のこと(Mさんが観た)、同志社公開講義の監督の質疑や映画の感想も。「うっかり忘れていたけれど、重信房子さんは革命家だったのですネ」と、Tさんらしいです。「メイさんの描かれ方が、インタビューの応答を含めて、感動を与えてくれるものが、マインホフさんの方は、又、別の世界があり、それはそれで考えさせられました」「足立さん、塩見君もインタビューに登場。塩見君は年令を重ねたい表情ですが、当時の主張を述べる時、照れ笑いを含めて話されるのは、どうか。自らの路線の間違いをきちんとはつきり述べるべき。たとえドキュメンタリーフィルムの中といえども、信じてついていったたくさんの人たちに対する責任もあるのではと考えます。」とあります。映画を見ていない私ですが、私も見たら、きっと同じことを考えるだろうと、Tさんの言葉をかみしめました。

Iさんからもお便り。マレーシアからひきずっていたインフルエンザの悪化』と気にしていましたが、元気な便りでホッ!「元気さはある、あえていえば思春期(老人性うつと言う友人もいますが)」となかなかお元気です。柿は不作でしたか?こちらピラカンサまっ盛りです。「パレスチナ援農報告会」のアラブコーヒーで芯から喜びが湧いたとのことは、うれしい!まだ若いのですから、走り回ってね!それからMさん12/8の開戦70周年のお便りには、「まずは開戦に到るまでに既に日本軍部と政府が推進した朝鮮、中国への侵略によって、どれほど人命軽視の傍若無人にされたか」と。加藤陽子著の「それでも日本人は『戦争』を選んだ」でも、加害者の自覚が足りないという論に対し「そうでしょうか。被害者の面からどれだけ甚大な許すべからざる被害を被ったかを、しっかり告発しないから、アジアや他の国の被害を被った人たちのことも見えてこないのではないのでしょうか」とあります。ヒロシマやナガサキの告発や謝罪要求そしてまた国民の側の被害を徹底して見つめることを怠ってきた、いい加減の「まあまあ国」と企業も権力機関も、ずっ

と日本を台無しにしているのですね。3・11でよく世界・日本に知らしめました。

12月14日 もうすっかり冬。窓の外の桜も桐も葉はすべて落ちてしまいました。南天桐の赤い実が残り、ヒヨドリヤツグミがせわしく実をついばんでいます。

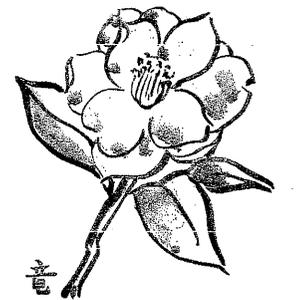
今日は第14クルールのXELOX療法の始まる日。診察室でDr.よりCVポートに点滴を装着してもらったあとで、12月5日のCT検査の結果を聞きました。肺、肝臓などガンの転移は見られなかった。また白血球を増やす注射でもあまり値が増えなかったため、今回は前回より薬量をへらして、第14クールを行うことになりました。

明日はDr.から「家族面談で、現在の治療状況を説明してください」とのこと。寒いので、点滴中は10時半から3時近くまで、昼食以外は寝ていました。

夕方、Kさんからみごとな紅葉の写真のお便り。Mさんからも感謝。Kさんの「重信房子が居た時代」の感想も感謝。他お便りや資料雑誌などありがとうございます。Tさんの資料はありがたいものでした。

12月16日 昨日今日と世田谷のボロ市。子ども時代の最大のイベントの一つでした。1950年代は国鉄の遺失物のカサヤ靴、メガネなどの売りもの山積みで、その対面に二人組の傷痍軍人が募金箱とアコーディオンで、「異国の丘」「美しき天然」を奏でていました。お小遣いの半分を募金箱に入れながら、父の無事を感謝したものです。お金もないので、小さなセルロイドの笛のようなものをスースー吸うとハッカの味のするリリアンの首飾りペンダントとか、一本3円や5円のモールで、それを曲げて花を形づくったり、それでも夢の宝物のようなものでした。そんな話を、昨日、姉たちの面会で話そうと思っていて、あっという間の時間に忘れてしまいましたけれど。

新聞では、オバマ大統領が「イラク戦争の終結宣言」を、15日の式典で行ったとのこと。年内に完全撤退予定とか。自らの米の政策が、中東で不公正を拡大させ、反米勢力を増大させたにもかかわらず、やれアルカイダだ、サダム・フセインだ、「反テロ」だ、「大量破壊兵器だ」と、他に責任を転嫁したまま、とりつくるの敗走です。イランに武器をイスラエルと共同で売ったり(イラン・コントラ事件)、サダム・フセインに全面協力してきたし、ウサマビンラディンを育成し、挙げ句の果ては殺しまくって、民族、宗教、さらには西歐とイスラムの今の対立もアメリカに大きく責



任があります。資金不足故に、「対決」は各国とも避けながらも、矛盾は内在し、中東全域にイスラム化をもたらしていくでしょう。殺されたイラク、アラブの人々、アメリカの兵士たちの数こそ忘れるべきではありません。

12月18日 八王子の最低気温は毎朝零下で、朝1時間スチームが入るけど寒い。死刑執行が今年こそありませんように思っていたら、今日の記事に、日弁連が、「死刑廃止検討委員会」を近く発足させることを決めたとのこと。死刑の執行について慎重な対応を求めてきた「死刑執行停止実現委員会」から「廃止」を視野に入れたものとのこと。このインパクトが、今年度中の死刑執行の阻止になることを願っています。

デジカメ歌人の二首。

時雨連れ夜の雷が捨ててきた
悲しみ拾えと告げるように渡る
ほの暗き冷たき風を入れる朝
生きてしまっている私がいる

12月19日 今日、年末年始の予定の回覧が回ってきました。仕事納めは28日。発信は27日まで。31日は菓子と年越しソバを夕食時に配布、元旦には折り詰め、面会再開は1月4日から。発信は5日から可能。もう年の瀬です。友人たちお便り感謝。ハッピーバースデー浴田さん! 昼のニュースはいつも入らず、ニュースのあとからスイッチが入るのですが、ニュースが長びいたせいか、北朝鮮の金正日総書記の病死を特集していて、少し聞きました。世界もアジアも変化・変革の時。よい変化を!と切実に祈ります。

12月20日 晴天続きですが、八王子は0℃-9℃の予測。寒いですが去年よりましです。一つはカイロが使えるようになったこと、もう一つは朝1時間、時には午後1時間のスチームが、去年より少し多めに入るようになったことです。去年よりスチームが入るなあと思っていたら、昨日早速「告知放送」がありまし

た。「スチーム暖房の見直しについて」の知らせです。おおむね次のような話です。「これまでもよりよい治療環境をめざし、限られた予算で工夫してきた。今冬期病棟のスチーム作動の基準を見直し、従来より高い温度で作動することを試みに実施した。そのためスチーム回数の増加によって、たくさんの燃料が必要で、その費用は1年間を通した燃料費によっている。そのため、節水や入浴時の温水・水道の流しっぱなしなどせず、自分だけ少しくらい使すぎても大丈夫などと思わず、節水につとめるように。節水が不十分で、燃料費が不足したら元の基準に戻すので留意されたし」といった内容。八王子は寒いので、朝や午後1時間のスチームを入れても足りないくらいです。法務省は予算を適正に配分すべきことです。

M子さんからはTさんと美浜原発の「高速増殖炉もんじゅ廃炉全国集会」に行った様子を、写真付きで伝えてくれました。ありがとうございます。1300人も集まったのですね！ TさんもYさんも参加された様子。またM子さんがNSやNさんと小さい頃からバイオリン教室で一緒にあったなんて！ びっくり、うれしいね。友人が友人を通して、またいろいろわかって！ NSにもよろしく言ってください。「オリーブの樹」も送ろうかと思います。集会の発言者、参加者、カラフルな幟や旗！ やっぱりこうでなくちゃね！ 帰りのマダイを釣り上げた写真みごと！ 虹の海や水晶浜もきれいな！ Kの海の家の一夏は、聞いたことある！ 先日、夫人のA子さんが同志社のM君の「送る会」の写真送ってくれました。手紙も出せないけれど、感謝をKと夫人に伝えてほしい！ 資料もM子さんありがとうございます！！ これから読みます。

新聞は金正日総書記死亡のあれこればかり。危機をあり、米日韓のスクラムを強める話。そんなことより、新しいアジアの時代の「平和構築戦略」こそ必要でしょう。現政権には戦略もないし望む方が無理でしょうが、新しい希求は韓国から生れるかもしれません。新しい野党の動きもあるし。

12月21日 今日今年最後のグラウンド体操。ピラカンサの赤がきれい。寒いので走り、2周しないうちに息切れ。あとはみんなとおしゃべりのウォーキング。午後はクリスマス会1:30~3:00。カソリックの「カリタス修道女会」の「小さな聖歌隊」の方々10人~12人と牧師さんらしい人。一人一人に歌詞のコピーと小さいろうそく(電池で炎のように見える)を配り、ヨハネの福音書から最初に言葉があったこと

を聖書から朗読しながら聖歌隊が歌い、私たちも第一部の終りには、神の子イエス(赤ちゃんの模型)に一人一人献火(電池式ろうそくを捧げる)。おごそかで良いものでした。第二部はさらに30分、賛美歌だったようですが、私は診察の呼び出しで中座しました。

房に戻ると、ちょうどクリスマス会を終えた聖歌隊の方々病棟の廊下を、「きよしこの夜……」を歌いながら回っていただきました。クリスマスの気分です。

カンパ、お便り、資料いただきました。ありがとうございます。

12月22日 今日は冬至です。寒いせいか、朝と午後3時半頃の2回スチームが入りました。午前中担当医の診察。

午後は久しぶりのコーラスに参加。「たき火」「きよしこの夜」「ジングルベル」を歌い、また音階の鉦を各人が持って、ドレミファ〜♪と「きよしこの夜」などを鉦で鳴らして歌います。「ソ」の音が多く忙しい人もいれば、高音のミの音で「眠りたもう」のミ1回だけの私と、みな真剣。先生の80歳というのにすごいボリュームのソプラノに導かれて出ない声をはりあげて楽しい一時。

12月24日 昨日も晴天ながら、寒い。すでに最低-2℃、今日は-4℃~6℃で、大手町の最低気温1℃と5℃の差があります。今日はクリスマスイヴ、いろんなクリスマスソングが昨日今日とラジオから流れてきて、学生時代のあわただしい師走を思い出したりしています。夕食時、プリンロールケーキが配られました。ロールケーキの中に生クリームとプリンが入っていて、バックに5切れ。これまでで一番豪華な八王子の特別食。ふわりとおいしく、5切れを夜9時の就寝時までには食べました。食べ過ぎです！

今日、キリストの誕生地パレスチナのベツレヘムでは、ユネスコからパレスチナを国家として認められ、ベツレヘムの生誕教会を世界遺産登録も目指してきたので、特別の思いでクリスマスイヴを迎えていることでしょう。

12月26日 今日寒い。新聞の予想気温を見るとなおさらです。6℃~4℃です。都心は7℃~2℃、零下ではありません。休み中の間に届いていた手紙類朝受け取りました。高校生だった北海道の少年は20歳になったとのこと。由井さんの「重信房子の居た時代」を読んだ感想など送ってくれました。MさんもS、

Nちゃんがもうすぐ冬休みの様子。いつも短歌や句が書かれています。

豊かさは貧しき農の暮らしにあり

昔はみんな百姓だった

木枯し君裁判傍聴終えし身に

デジカメ歌人から「冬至」のみごとな銀杏樹と、それにふさわしい与謝野晶子の三首がそえられていました。私も姉もこの一首が好きです。「金色のちいさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕陽の闇に」。厳しい冷たさに抗うように狭いベランダウォーキング。「クリスマスイヴのケーキたくさん！おいしかったねー！」「25日のローストレッグも！」と、みな、久しぶりのごちそうに楽しそうに話します。もっぱら「お正月はどんなおせち料理か」などなど話。

午後は久しぶりクラケンのお便り、ありがとう。「土曜会」の忘年会のこととか知りたかったところ。I子さん年末のあいさつ感謝。「八王子は氷点下でしょう。ごえていませんか。昨夜夢で房子さんに会えました。ギョッとだきしめて、その体の細さがずっと頭に残っています。」とのこと！ 大丈夫！ 副作用も去ってもりもり食べ過ぎて、とくにお腹のまわりはメタボ！ 48kgから51kgにはなってます。走ると重たいですもん。

もうこの便は2011年、今年最後の私からの発信となります。あさって28日は仕事納め。本当に速い速度です。毎日、自分の置かれた環境をふと忘れ、友人たち家族たちと対話したり書いたりして、あつという間に今年も終わりそう。PS：今四方田先生から著書「李香蘭と原節子」届きました。感謝。

12月27日 八王子は気温最高8℃最低-4℃です。今日は運動のためにベランダでラジオ体操始めたところで、プランター一杯の葉ボタンの盛り合わせを2つ運んできました。思わず「わーすごい！」喚声。トップに10センチくらいのうす紫と緑の20センチくらいの大きめの葉ボタンがびっしりと囲んで、豪華な姿！ 正月の花飾りです。

いい日だなあと思っていたのに、午後「告知です」と呼び出し。「告知です」というのは良いことがないなあ……と思いつつ会見室へ。「第一統括です。私に来るといい話ではないのですが」と前置きして、「昨日着いたYさんの手紙は、新法129条により手紙全部が差し止めで交付されないの告知します」とのこと。待っていた手紙なのですが……。他の獄中者、浴田さんとか泉水さんのこととか書くと、禁止に触れるので多分そのせいかと思えます。量が少なくと削除黒塗りで

すが、量が多いと手紙全体不可になるらしいです。それが続くと「交通も禁止」されかねません。せつかく楽しみにしていた手紙なのですが残念です。

その後TV。バラエティ。房に戻ったら、姉とMさんから今年最後のお便りとのこと。大谷弁護士からは今年面会叶わず来年になるとのお便り。姉の送ってくれた旧暦の入った月齢カレンダー交付受け取りました。短歌づくりには欠かせません、感謝。Kさん「通販生活」ありがとう。原発国民投票の話題の号です。

みんなに支えられて治療、寝ている私ですが、外の空気、ここの係の方々動きなど、暮れのおしつまった年越しの大変さに、私も何か気ぜわしい年越し気分になっています。

12月28日 今日は仕事納め。先週までと思ったグラウンドでの運動が10時半から。9℃~3℃の今日も晴天。寒いけど空気が凛と張っていて気持ちいい。話しかけてくる人たちと話をしながらグラウンドを歩き、空気を一杯深呼吸。

午後には今年最後の担当医診察で、CVポートを洗浄し、来年の1月4日の採血、11日からの第15クルの予定を確認しました。「告知があります」と会議室へ呼び出し。また手紙の禁止かと思っていたのですが、そうではなく、11月の巡視監査官への書面での「苦情申立て」への回答の告知。私が申し立てた防寒の改善(①防寒のために半天やジャケットの着用許可②房内暖房の改善、③冷たすぎる夕食の改善など)については「不決定。意見を述べたにすぎない」とのこと。いつも10年こんな具合でしたが、今回もです。

3時過ぎ、メイの面会。今年最後の日の面会です。多忙続きで、元旦には中東取材で出発と、相変わらず元気に働いている様子がわかって楽しい。病状のことやYさんの手紙が差し止めになった伝言とか、話をしているうちにもう時間。早めのハッピーニューイヤー！を交わして別れました。

夕方いつも5時の点呼はきり上がって4時点呼。その後夕食。それまでに到着した交付資料もまたどっと受け取りました。クラケンの送ってくれた資料に、12月3日経産省前のテント内で、「明大土曜会」主催の「原発よせ(寄席)」が開かれた！！ そんな楽しいYさんブログも送ってくれました。土曜会のたけしが落語家だもんね！(真打柳家三壽) どんどんやってね。「インターを歌う落語家」ってアラブにいた時、知らせてくれる人もいましたよ。気仙沼出身の気合いでがんばって！ エールをいっぱい送ります。他にたくさ

んの資料感謝。

12月31日 今年2011年最後の日。29日から休業に入り、食欲もあり、元気な年越しを迎えています。その間、八王子は今日も最低気温-4℃で寒いですが、朝と午後一日2回スチームが入り、カイロも使って、去年のようなしもやけはありません。

年末も友情のお便り、KさんUさんありがとうございます。夕食時に年越しのカップ麺。去年は日清のどんべいの天ぷらそばでおいしかったけど、今日のは、いわせてもらえば、ちょっと味が落ちる……。茨城スナオン隣の天ぷらそば。メーカーによってずいぶん味がちがいます。恒例の紅白NHKから「行く年来る年」の0:15までのラジオ。0:00新年には窓辺で、あいさつ。去年はありがとう。今年は、きっと良い年に共に！と。

2012年1月元旦 晴天。朝焼けの向こうから、初日の出が登場！ 改めて新年、闘春の志を共に！と。日本から国境の向こう、パレスチナへと送りました。

朝はお節料理が配られました。去年の方が少しよかったです。数の子とか、東拘のようなエビや紅白まんじゅうや大きなお節ではありません。去年の八王子のはやはり小さい今年と同じですが、ちょっと数の子もありました。今年は野菜の煮物中心。でもおいしかったです！ きれいに並べられていると、それだけでも正月気分です。昼は白飯のかわりに小さい餅が2個で雑煮です。一日中ゆったりと本を読み、短歌を詠んでみたい正月です。

年賀状もたくさん受け取り感謝！ 返事が書けません。お許しください。新年“竜昇り天革まる年となれ脱原発はわれらの狼煙”と友人たちにエールを送ります。そして健康な2012年として下さい。

1月3日 昨日も今日も年末から朝と夕食前にスチームが1時間ずつ入って、カイロをソックスカバーに入れているので、しもやけなしの年越しと年始です。昨日今日と、ラジオの箱根駅伝(12時から14時過ぎまでの中継)を楽しみました。東洋大の圧勝に明治も3位！

1月4日 今日から仕事始め。晴天続きで気分が晴れやかです。

朝採血。今朝は早々と房内検査。それから初運動はグラウンド。ずっと房内に居たので久しぶりの屋外の

運動はうれしい。風のないグラウンドを話したりして歩きました。初の診察。今朝の採血検査の結果。白血球、血小板もOKで、久しぶりに皮下注射ノイロジンなしに、11日から第15クールに入ることになりました。腫瘍マーカーの結果はまだ出ていないとのこと。インフルエンザの予防注射もしました。

午後、処遇課より告知。12月28日受付のTさんよりの手紙には新法129条に抵触する箇所があり一部抹消とのこと。夕方それを受け取りました。数行他の獄中者について触れていたことなどかもしれません(資料①～⑦のうち、②③は欠けていました)。またKさんからも去年の締めくくりのお便りと切手ありがとうございます。まだ賀状が届いて、今日も受け取りました。ありがとうございます。SとKに、Nさんから感謝を伝えて下さい。Kはいい電の絵描いていますね。金賞をもらったとか。すごい。Oさんありがとう。「昨年短歌ブログに『しもやけの房子さん』』というのを詠んだの」ですってね!! いつも「救援」のガサ子ちゃん読んでます。Yさんお年玉をありがとうございます。今年もよろしく共に！ 他賀状お便りありがとうございます。I子さんは今年は外へさらに想いをつくって行ってね！ Mさん今年も元気で！ K先生、ありがとうございます。Kさんから短歌より小説を書け！との賀状。まだなかなかです。Nさん今年の修行で大飛躍しそう。いっぱい書いてくれること待っています。Tさんガンの疑い。しっかり検査して早めの対策を！ Tさん故里に娘さんと行けていいですね。私もいつか……。今年もTさんの元気な姿を励ましとしています。Hさん、旅は終わらず、息子の時代へと、またいっぱい活躍を！ Tさん、土曜会の変化はうれしい発展ですね。他いっぱい伝えたい友人たち、今年もよろしく。ありがとうございます。

1月5日 今日晴天。8℃～4℃です。ずっと零下の八王子の最低気温ですが、大手町8℃～10℃と、やはり5℃くらい最低温度が低いです。

午前中はベランダでウォーキング。葉ボタンがきれい！ 千日紅は今も年を越えて咲いています。午後はTV。日光の晩秋の美しい紹介番組。今日から資料も届いています。「かりの会」の「かりはゆく」118号が届き、そこにNさんのペイルート丸岡同志納骨墓参報告が載っていました。みんなの様子もわかり感謝。他に資料・年賀状も届いています。ありがとうございます。N子さんの絵はやっぱり楽しくて生き方の出ている元気な賀状。

シンガポール・クウェート作戦の時代—アジア連帯(3)

重信 房子

6. シンガポール作戦

シンガポール本土からブクム島までは、海上フェリーで繋がっている。朝、島へ労働者は出勤し、夕方のフェリーで本土に戻ってくる。島の周りには、立ち入り禁止の立て看板があちこちにある。「文盲対策」としてドクロに禁止のバツ印や銃で撃たれて倒れている人の絵が島の周りのあちこちに立て看板となっており、「近づいたら、撃ち殺される」という凶柄を示している。フェリーに乗る時には、身分証明書を検問で見せて次々と乗り込んでいく。アジア人である限りそれにまぎれることは難しいことではない。調査部隊のアジア人の何人もが適当な身分証をさっと見せてはブクム島に入り込み、どの石油タンクがナフサ、重油、軽油かと、調べていった。タンクには番号があり、タンクの内ふたは、内の容積によって上がったりがつたりするらしい。最新設備が整っているという。PFLPアウトサイドワーク局は、中東の石油の産油国の技術者たちの話を聞き、タンクの厚さや火災に対する予防や対策など、知識を積み重ねて準備してきた。こうした調査の積み重ねをしていた頃に、ドバイ闘争に対する私たちの批判が出てきた。結局、アウトサイドワークの闘いを半ば批判し、半ば評価し、アジアの仲間たちはブクム島作戦を継続することとなった。

当初計画の部隊の5人は、ラテンアメリカ人とアジア人だったらしく、アウトサイドワークへの批判や母国の活動の事情で、部隊のリーダー格のラテンアメリカ人は実行部隊から降りたらしかった。在欧の日本人、アジア人やパレスチナ人、在アラブの日本人に打診されて、結局、パレスチナ人E、Fと日本人G、Hの4人がアウトサイドワークの指揮のもとで実行部隊に加わるようになった。

事件は以下のように進行した。当時の新聞記事から記憶を喚起しつつ事件について記しておく。

74年1月31日午前10時過ぎ、実行部隊のパーセル・クバイシ隊(キャプテンEの指揮下計4人)はチャーターした釣り舟からシンガポール沖合のブクム島に、11時過ぎに潜入した。(パーセル・クバイシは前年に、イスラエルモサドによってフランスで暗殺されたPFLPのリーダーの一人の名前である。)

島に潜入した後、シェル石油グループ傘下の精油所

の石油タンク4基に、プラスチック爆弾を仕掛けた。(新聞では内3発が爆発) 攻撃が発覚し、精油所の警備隊と撃ち合いながら、近くに停泊中のフェリー「ラシヤ号」(精油所所有、定員150人)を占拠し、5人の乗務員を人質として海上に対峙した。彼らは海上でシンガポール警察に対し、「われわれはPFLPと日本赤軍である。たった今、ベトナム解放闘争を闘うベトナム人民と団結するために、ブクム島を爆破した。これは今日の石油危機に鑑み、革命的状況をもたらすためである。作戦任務を終えた我々は、直ちに海外への安全な脱出を求め」と要求した。そしてクバイシ隊は、シンガポールからの安全な脱出のための航空機を要求した。

クバイシ隊の制圧したフェリーはシンガポール港内で、海上警察艇に包囲された。シンガポール政府は、31日午後3時過ぎに、グループと交渉し、パレスチナ人と日本人であることを確認した。日本大使館側は現場に急行して交渉に乗り出した。

PFLPは31日声明を発表し、シンガポールのシェル石油基地襲撃の責任を表明した。

シンガポール政府は「政治的事案」として、31日夜、部隊が安全に国外退去することを保障すると表明した。

攻撃した石油タンクは、精油タンクではなく、原油か重油タンクだったらしく、島全体への火災による機能不全には至らず、1時間程度で、消し止められたという。ちょうど少し前の1月に、アジア歴訪で田中首相に対する激しい反日デモを体験していた日本政府にとっては厳しいものであった。

安全な国外退去を決定したシンガポール政府の動きに対抗し、2月1日、日本は警視庁の佐々淳行外事課長らをシンガポールに派遣した。佐々一行は政治的事件の解決ではなく、「過激派対策逮捕」にのりだした。そして、日本側は、まずもって、作戦部隊に武装解除せよと要求した。そして、作戦部隊側が要求していた脱出用の日航機の提供は認めないと主張した。

この2月1日、日本国内では、石油スタンドに火炎瓶が投げ込まれたり、京大では闘争支持の立て看板が「京大同学会」名で出された。「国際資本製油所爆破闘争支持。テルアビブ→ブクム島そして? 2・11アジ

ア人民抗日闘争連帯、全関西集会へ。同学会」という立看だったらしい。また、人民新聞(当時は新左翼社)は2日午前0時から在阪新聞記者と会見し、「この闘いを遂行した組織の一員」と賞する人物から国際電話を通してPFLPと日本赤軍の同闘争に関する宣言が届いたと発表した。「この闘いは全世界の搾取、独占企業に対する警告であり、米国のアラブ石油資源占領という脅かしに対する戦闘である」シエル石油を目標としたのは、インドシナ、アラブ人民に敵対する帝国主義者、シオニストの中でも悪辣な役割を果たしているからである。ここの石油はインドシナ人民を攻撃する武器の製造に使われている」と声明で述べられていたという。東京では支持ピラが撒かれていた。「1・31シエル製油所爆破闘争万歳! 日本赤軍とPFLPによって組織されたパーセル・クバイシ隊によるシンガポール、ブクム島石油基地に対する爆破闘争がシンガポール反革命の包囲にもかかわらず、断固貫徹されたことを断固支持する。世界革命戦線情報センター」と、印刷されていた。

シンガポール政府は、部隊の安全移送のために、日本側に日航機提供を含む協力を求めた。しかし、こうした政治的收拾の動きに対して、日本政府はシンガポール政府の要請を「犯人が武装しているから駄目だ」と、妨害した。こうした膠着状態に対して、PFLPは2月2日声明を発表し、警告している。「日本政府は、ゲリラのシンガポール出発を妨害している。我々は、もし、彼らの安全が保障されなかった場合、この敵対行為に対して、日本政府が全面的に責任を負うべきであることを警告する」と述べている。それは、言下に、日本政府がこれ以上妨害行為をするならば、次ぎの作戦行動をとらざるを得ないと警告するものであった。

ところが、日本政府側は「犯人面割り調査」や「新左翼社を捜索」と、国内で捜査や拘束など次々と弾圧をくり返した。一方、シンガポール政府側は、PFLPやクバイシ隊の要求(シンガポール人の人質を釈放し、日本大使が人質となって、日航特別機でシンガポールを脱出する)を受け入れていた。しかし、日本政府が応じないため、シンガポール政府と日本政府は矛盾をきたし、日本政府のやり方を批判していた。シンガポールの最左翼である人民戦線は、3日、シンガポール政府に対して、①自分たちが人質解放の身代わりになる、②日本政府でなく、アラブ各国、マレーシア、インドネシア、またはフランスが特別機を出して、解決するように提案した、という2月3日のニュースも

流れていた。

また、クバイシ隊は、差し入れられた現地新聞から佐々ら日本警察が当地に来たことを知り、シンガポール政府に不信を表明した。安全な国外退去を保証したシンガポール政府まで意図を疑われてしまった。シンガポール政府は日本の警察官が派遣されたことについて不快の念を表明し、警察活動の協力を拒否した。

こうした日本とシンガポールの矛盾によって、佐々外事課長は2月5日に帰国を余儀なくされた。しかし、それまでに、海上から「犯人撮影」などを行って、身元割り出しや国内での支援者の捜索や事情聴取を引きつづいて続けていた。一方、シンガポールにおいては、日本が特別機を出さない条件では、次善の策として、シンガポール国内の外国公館への一時亡命を認めるなどの提案を行ったと、新聞は記している。「5日、犯人は、北朝鮮の総領事館を一時亡命先として選んだ。犯人は最終的な脱出先をなおアラブ諸国としており、アラブへの脱出方法など依然問題が残る」という2月6日の記事に示されるように、局面打開の交渉が続いていた。

7、クウェート作戦

6日白昼、在クウェート日本大使館がPFLPの武装ゲリラ数人に占拠された。彼らは「PFLPガッサン・カナファーニ隊」を名乗り、石川大使ら大使館員5人全員と、居合わせた日本人商社員3人の他、現地採用者8人の計16人を人質にたてこもった。そして、6日、日本時間午後6時前、大使館のテレックスを使って、直接外務省に英文テレックスを打ち込んで、シンガポール製油所襲撃事件の仲間の安全移送を求めた。当時、交信の最も早い手段はテレックスであり、直通電話や携帯も衛星TELも放送なども、もちろん未だ存在していない。PFLPからの電文(全文テレックス)は、以下の通り。

「パレスチナ解放人民戦線は、『日本赤軍』および『被占領地の息子たち』の組織と協力し、在クウェート日本大使館の占拠を宣言する。日本政府は我々の4人の英雄を武装解除せず、人質(複数)と共に、クウェートに運ぶために、シンガポールへ直ちに航空機を送るよう、直ちに、かつ公開の命令を出さなければならない。日本政府はこのメッセージを受領した後、一時間以内にこの命令を発しなれば、まず人質の大使館二等書記官が処刑されるだろう。在クウェート日本大使、一等書記官、二等書記官、三等書記官、および理事官、日本人補助員はすべて館内に人質になっている。」彼ら

は、PFLPガッサン・カナファーニ隊を名乗り、このように宣言した。

これを受けて、「日本政府田中首相、大平外相、二階堂官房長官らの政府首脳は、この突発事件に対処して緊急協議した結果、大使館員の生命の安全保持を第一に考えて、ゲリラ側の要求を全面的に受け入れることを決定し、占拠中のゲリラに折り返しテレックスで『アクセプト』の回答をする一方、日航に航空機の緊急手配を指示した。日航機は7日午前3時シンガポールに向かう予定。また、政府はクウェート政府に対し、大使館員の保護、日航機の着陸、ゲリラとの連絡などで協力を要請。さらに、和田エジプト大使を現地向かわせた」と、2月7日「クウェート日本大使館武装ゲリラが占拠」の見出しの毎日新聞の一面の記事は、伝えている。

シンガポール人が人質の時には一切の日本の飛行機の協力を拒否してきた日本政府は、日本人が人質になったとたんに、掌を返したように動き出したことで、シンガポールの新聞は一斉に日本のやり方を批判した。

クウェート作戦に出発したコマンドたちはどのような人たちだろうか。

クウェート作戦に参加したコマンドの中に、「フィルフィル狂」の防衛として生活を共にしてきた保安部の仲間も居たというのが後でわかった。彼らの中には、パーシムやニザールとも共同訓練した仲間たちだった者も居た。アウトサイドワークに居た者たちも、コマンドとして一定の活動を終えると、アウトサイドワークの軍事技術、訓練教官や立案に至る様々な活動を系統的に継続する者も居たが、希望で、または求められて他の部局で活動する者も多い。ライラ・ハリッドは彼女の能力と才能ゆえに、74年以降、アウトサイドワーク局から新しく始まったパレスチナ女性同盟の活動へとシフトして政治活動を担っていた。このように、一定期間アウトサイドワークで命を張った作戦を実行した者は、後に違う領域に行つて活動する者も多い。アウトサイドワークでは、他の部署より厳しく鍛えられることもあって、アウトサイドワークから保安局へ移ってくる人も多かった。それらの人は、私のペイルートでの身辺安全対策などに協力してくれる人が居て、彼らからもアウトサイドワークのことは聞くことがあった。

アウトサイドワークにニザールの友人のMという人が居た。彼はシンガポール作戦の海上での対峙膠着状態に対して、即行動開始した。(Mは、後の80年代に、

このクウェート作戦と、その後のいきさつをすでに公表している。)PFLP指導部に至急連続作戦で戦士たちの安全帰還のための作戦行動をとるように提言したという。PFLPは、闘った者を平和的、非平和的に必ず助けるのは、彼らの組織の原則である。PFLP指導部の許可を求め、未だ許可のないうちから早速行動を開始した。上部の指揮を半ば無視して部隊形成した。なぜなら、シンガポールの実行部隊のパレスチナ人E、Fは、彼の親友だったから切実だったという。アウトサイドワークの指揮が降りない条件で、PFLP軍事局に掛け合った。軍事局はゴーサインを出したが、Mの思惑と違っていた。軍事局はシリアで行動を起こせという。

当時シリアとPFLPは良くない関係にあった。PFLPができた直後の68年か69年には、ハバシュ議長がシリアバース党政権に逮捕されたこともあった。アウトサイドワークのアブ・ハニが立案し、シリア将校団に服装もジープも擬装して、ハバシュの獄から他の獄への偽りの移送命令書を作成して、まんまと騙してレバノンに逃げおこせた武勇伝もあった。シリア現政権のアサド大統領のクーデターによって追放された経済相と法相は、ANMの仲間だ。私は彼らとイラクへの代表団に加わったりして、よく知っている。当時、イラクとシリアは関係が悪かったので、PFLPとイラクは友好的な分、シリアとPFLPは敵対関係にあった。PFLP指導部の方は、そこなら問題を起こしても構わないという考えらしかった。

Mは、とても頭の切れる人間で、どんな作戦指揮を取らせても失敗したことがないし、何でもやっつてのけるので有名だった。ただし、上からの指示でも、納得いかなければ言うことを聞かない。勝手に指示を変更することで生き残ってきた。

かつてギリシャアテネのイスラエルのエルアル航空事務所を一人で襲撃し、そこで投降しろという作戦指示を受けていた。彼は作戦を実行したが、投降はしなかった。アテネの中心にあるシンタグマ広場に面したエルアル航空事務所を攻撃して、近くの航空会社の事務所に一人で人質をとってたてこもり、クウェート大使館を仲介としてクウェートに安全帰還した経験を持っていた。

シリアはどんな条件でも自分の国では作戦をやらせない。もしダマスカスで日本大使館占拠作戦をやれば、シリア治安部隊によって、たとえ友軍でも皆殺しにされるとMはわかっていた。

彼は仲間たちを集めて、クウェートの日本大使館を

占拠することにした。旅券、お金、武器、それらの準備は彼を支持する友人たちが即座に呼応した。「シンガポールの仲間を助ける」と聞いて、「黒い九月」に行ったアウトサイドワークの旧友やボランティア仲間もカンパしたり、武器の輸送を手伝ったという。友人のためなら、いつでも作戦に出動して助けよう、そんな仲間たちの心意気はPFLPの戦士たちに共通していた。フェダーイ（犠牲をいとわない者たち）と呼ばれたパレスチナコマンドたち全員のそんな身軽な助け合いの心が日常だったと言える。私たちと山荘で少しやりあったりした仲間も2人加わっていたのを後で知った。とにかく、Mのイニシアチブで「仲間を助けて何が悪い?!」という心意気で、ペイルート、ダマスカス、バグダッドと砂漠を走って、クウェートに着き、即座に日本大使館を占拠した。彼らは「我々はガッサン・カナファーニ隊だ」と名乗った。彼、Mは、ガッサン・カナファーニが大好きだった。

クウェートの日本大使館占拠によって、即座に事態が動き出した。もともと、クウェートには当時人口の30%近くのパレスチナ人が働きに来ており、PLOもPFLPも友好的な関係にあった。クウェートの政策としては、パレスチナ解放闘争に支持を惜しまない積極的な立場にあった。もちろん、クウェート国内の作戦や問題を起ささないように、というところもある。クウェート王政は常にパレスチナ勢力と友好的な関係で、社会的安定を保っていた。そんなクウェートでの作戦に驚き困惑したのはPFLP指導部だったろう。

作戦がはじまってすぐ、クウェート内相は、日本側の「アクセプト」に沿って、シンガポールからの日航特別機受け入れ体制を取ると同時に、PFLPの代表を即座に招請して、事態の安全な終結をめざした。すでに2月8日の新聞記事でも、「ゲリラ シンガポール、日航機へ乗り込む、大使館占拠解決へ動き出す。クウェート着陸許可、外務省田中局長ら現地折衝へ。政府第三国打診 シンガポールゲリラ脱出」「マイクログラスで空港へ」「クウェート事件解決は近い、クウェート内相が言明」「我々は日本政府、アラファトPLO議長と継続して連絡をとっている」「PFLPの代表がクウェート政府の要請で、6日夜遅く、クウェートに到着、早朝解決に協力している」といった記事が踊っている。こうしてPLOとPFLPの代表らがクウェート占拠部隊のMらと交渉を開始した。

シンガポールでは、パーセル・クバイシ隊は8日間、作戦後国外脱出を求め、対峙しつづけた。ついに、8

日午前1時25分日航DC8特別機でシンガポール空港を飛び立った。武装解除を拒否し、武器を持ったままクウェートに向かった。「この事件の処理をめぐって、日本、シンガポール両国内のよそよそしい感情を癒すには、時間がかかるだろうと日本大使館も認めている」と、記事で明らかにされるほどであった。後に、シンガポール政府は、日本からの事件の資料提出要請を断った。そのため、このシンガポール事件に対する立件は見送られた。

シンガポールの部隊を乗せた特別機はクウェート空港に降りた。そして在クウェート日本大使館を占拠してから50時間ぶりに占拠を解除したガッサン・カナファーニ隊も乗り込んで、8日午後7時55分にアデン空港に到着した。こうして、ゲリラ部隊はシンガポールパーセル・クバイシ隊、クウェートガッサン・カナファーニ隊の両作戦部隊とも無事に戦場に帰還した。

このシンガポール作戦を通して、PFLPは、73年の中東戦争後の危険な和平交渉、「ミニパレスチナ国家」路線への動きを批判していった。アジア連帯を表明しつつ、2月に予定されていたPNC（パレスチナ民族評議会）にむけたパレスチナミニ国家の動きに警鐘を鳴らした。PFLPは2月イラクバース党らと拒否戦線を結成宣言して、アラファト路線と決定的に対立していく時代の分かれ目に立っていた作戦であった。

PFLPはアジア連帯を述べたが、作戦の政治声明では中東戦争の終結と石油戦略の発動が停戦協定、和平交渉、「ミニパレスチナ国家」路線に流れていくことを中心に批判し、ミニパレスチナ国家反対を訴えた。

私たちは、PFLPの情報局アル・ハダフの表明した、それらを受けて、「赤軍宣言」を「アラブ赤軍」の名において日本向けに表明した。

「我々の任務は明確である。帝国主義政治によって終わらされようとする2つの戦場、すなわちインドシナ革命戦場とアラブ革命戦場をひとつにつなぎ、第1に、ベトナム解放闘争に連帯しパレスチナ解放の共通の利益の闘いを示すこと、第2に、米帝、シオニズムのアジアの拠点として、シンガポールがあり、人民の戦場として闘う」などと述べている。

闘争は、中東の10月戦争停戦による一方的なイスラエルに有利な収拾に反対し、石油を武器とした人民の闘いとして、アジア人民連帯を求め、石油基地を全面的に破壊することであった。しかし、その目的を貫徹しえず、敵の石油基地の全破壊に至らなかった。「にもかかわらず、シンガポールでの不屈な闘いと連帯し

たクウェート日本大使館占拠の闘いによって、さらに強固な闘い主体の、戦場を越えた連帯の闘いとして、育った」と「赤軍宣言」の中で、積極的にとらえていた。

8. バグダッドにて

ちょうどそのシンガポール・クウェート作戦の頃には、私はハバシュ会議を経て、日本人独自の組織づくりに向けて動き出していた。日本でこれまで協力し合ってきた友人たちとひとつの組織として統一していくために、私は主に夏に向けたその代表者たちの会議を開こうと呼びかけていた。そして、話し合いや持ち回り会議の準備を担当していた。

そして、また、在アラブの私たちは、リビア問題も引き続いて解決が問われていた。リビアに居るドバイ闘争の実行部隊の要求によって、作戦参加したPFLPとラテンアメリカの人々の組織、それに私たちで、救援対策会議を2月から3月に計画していた。ことに作戦中に戦死した女性の賠償のことも、PFLPに要求してほしいということであったが、釈放に向けてどうすべきかなどの対策を話し合うことになっていた。これも12月のハバシュ会議に提起して決めたことだった。

こうして、ラテンアメリカの組織は2月下旬から3月にバグダッドにきた。この救援対策会議では、私がリビアの現状を話し、今後の釈放と戦士らの家族同士らのリビア訪問が可能であることも説明した。結局、リビア問題はPFLPの責任ではあるが、私たち日本人が引きついで交渉しながら、対立してきたリビアとPFLPの窓口を開いていくことにした。ラテンアメリカのグループのリーダーは、アウトサイドワークアブ・ハニが最も責任を負うべきで、自分たちはこうした救援の会議よりも直接アブ・ハニとの会議、また別個に日本人との独自のテーマの共同会議にしたいとの申し出があった。

どちらにしても、リビア対策は私たちが引き続き、PLOと協力し合って解決していくことになった。ラテンアメリカのグループは、ブラジル人を中心としてパリに亡命拠点を置いており、私たちは彼らを通称アシエングループと呼ぶことにした。彼らとは在欧の日本人も友好的で、欧州での共同について話を深めていった。

在欧の仲間たちは財源確保のための作戦の調査準備を前年から考えていた。この作戦は、解放放送局など、アジア基金、また、加えて日本人組織のための独

立に向けた資金調達をも目的としていた。10月戦争で、石油危機の中、商社による買占めが問題となっていたので、欧州でその作戦の可能性を考え始めたのだった。

2月頃、救援会議の予定に合わせて、在欧の仲間が来た。Iである。Iは、PFLPと共同しており、信頼もされていたので、バグダッド空港からPFLPの同行なしに、直接に我が家に来ることが多い。私たちバグダッドに不在中は、PFLPの友人が使用しているので、彼らも自分の家のように振舞う。

この時も、勝手知ったる我が家とやって来た。門のベルを鳴らして、暗がりからもう一人。新しい仲間を連れてきた。「やー！やっぱあなたでしたか？」同行者のSはなつかしそうに言う。私は当初は判らなかつたが、話を聞いて分かった。69年に、私が友人の歌手と京大の「バリ祭（「バリエードの祭り」の意味）」に行った時の実行委員長だったSさんである。あの頃はちょうど69年の4・28闘争の前だった。東大安田講堂が制圧され、学生たちは怒っていた。潜伏中の東大共闘議長も闘争宣言を発していた。京大もバリエードスト中で、その中で、パルチザンやノンポリ中心に「バリ祭」と名うって、様々な講座やイベントをやっていた。当時俳優で歌手だった荒木一郎が、「バリ祭」に招かれた。10万円だったか、出演料を払ったと聞いて、私たちは憤慨してしまった。ちょうど京都の祇園会館で歌い、その隣の宿舎に高石ともやもやって来た。「学生に連帯することはただで歌うことだ。私たちから実践しようじゃないか」ということになって、翌日連帯を求めて、京大バリエードの中に乗り込むべきだと決めた。こんな勝手な即断は当時ではいつものこと。私たちが楽しく闘っていた一つの表現であったろう。先に仕事の終わる高石さんが京大キャンパスで弾き語りして歌いはじめた。突然の歌手の出現に皆集まって来た。そのうち、雨がボツリと降り出して、バリ祭実行委のSさんらが誘導して、講堂のような所に入って、歌い始めたらしい。そこに加藤登紀子も合流して歌った。次々と闘いの歌を、大声で歌った。「五月のバリ」「ワルシャワ労働歌」「琵琶湖周遊の歌」「正義に燃ゆる闘いに雄々しき君は倒れぬ」。「インターナショナル」も最期みんなで肩を組んで歌う。私も仲間として、マイクを握らされて歌えるわけではないので、「4・28東京で会いましょう！」と訴えると、わっとまた盛り上がった。そのまま何人かの京大生を連れて宿舎に戻り、徹夜で連帯について討議したことがあった。その時、宿舎に招かなかつた一人がSさんだつ

た。「あら！あの時あなたは、なんか革マルっぽく、文化論語ってましたね。それで呼ばなかったのですよ！」などと再会を笑いあった。彼は在欧の仲間の一人で、ちょうど息子が生まれたので、3月には日本に戻るといふ。何か手伝うことあったら言ってほしいという。ちょうど救援対策会議などで、多忙中だったので、その晩しか話す時間はこちらにはない。昔話をして、酒盛りをし、国内の友人たちへのカンパ要請の手紙を託した。

この時、Iは在欧の限られた仲間、すでに調査をはじめている「ホンヤク作戦」について私に語った。日本人商社Mの支店長について知人からプライベートまで分かるので、その人物を拉致して、身代金を要求するという計画を考えていると言う。こうして、在欧の友人からホンヤク作戦計画が打ち明けられた。すでに、仲間のQが調査を始めているという。中東戦争、石油危機以降の商社の買占めで、商社をターゲットにすることは、政治的にも良い考えだとその計画に私も安易に賛成した。しかし、どのように在欧の仲間たちが調査を進めているかその時には分かっていたはなかった。

私は当時、彼らの実力を買いかぶって依存するところがあつた。Iのやることは、これまでの経験から、何でもうまくいくと思っているところが私にはあつた。いろいろの情報を良く知っていること、困難に直面したら即対応力があること、ヨーロッパのどの国のどの路地のラーメン屋がうまいということまで、聞けば即座に答えられる。在欧の代表格のJからして、Iの能力には舌を巻いていたし、アブ・ハニまでが彼の仕事は100万ドルに値すると絶賛したこともあつたという。

この時の、74年のSとの「酒盛りの話」は、2001年、私の公判の中で、検察側が私の有罪起訴に作り上げた。Sさんは、奥平純三さんを出国させた不正旅券取得の件で逮捕され、70年代有罪となっていた。この30年以上前の話しを、記憶すらはっきりしないというSさんから聞いて、検事の調書作文を作ったのである。曰く、この酒盛りの一夜の時に、私が奥平純三さんを出国させるための旅券の調達をSさんに頼んだというのである。これは、他のQの調書でも、私でない在欧の人物が関わったと分かる調書もあるにもかかわらず、私が「共謀者」として突然起訴された。(後に、Sさんは「あれは〇〇のことだ」と、弁護士に在欧の仲間の名を語っていた。しかし、私はその名を私

の公判では明らかにしないことにした。)

また、「ホンヤク作戦」も、2001年の検察冒頭陳述では、私が在欧の仲間に指示したというストーリーに作られている。かつて、闘っていて、途中からやめていったり、今は闘っていない人もいる。その人々が私よりも当時は先行していたし、能力があつた。そうだとすると、検察は私をターゲットに政治的に罪を作り上げた。「現在」の政治判断として、検察権力の政治的報復を負うのは「日本赤軍リーダーの重信だ」とする、検察の意図どおりの物語が作文された。この物語の中で、私は奥平純三さんの出国に関しての共謀者であり、アブ・ハニも重信も「ホンヤク作戦」の首謀者という物語にされた。「ホンヤク作戦」は、日本人が資金調達とPFLPから独立するために考えた日本人のみの計画であつた。もちろんアブ・ハニは関与していない。

しかし、検察は「ハーグ闘争の共謀」という私の関与を捏造するために、「ホンヤク作戦」もハーグ闘争もアブ・ハニと重信の指示で行われたと、連続した二つの作戦物語に作り上げた。こうした検察の物語に対して、ホンヤク作戦は日本人独自のものであり、ハーグ闘争はPFLPの作戦だと主張して、私は無罪を主張してきた。こうした検察の物語の不十分ゆえに、驚いたことに裁判所は「ホンヤク作戦」も、ハーグ闘争までも「日本人独自の作戦」と誤認し、検察におもねた重罪を認定した。

しかし、事実ではない。

とにかく、この時期、74年の2～3月に、人々がバグダッドに集まった。73年からずっと千客万来の多忙さがつづいた。

そんな時でも、私たちは訪問客の歓待も楽しみも兼ねて、チグリス河岸のオープンレストランによく出かけた。チグリス河で獲れる鯉の一種のマスグループを開きにして、炭火で焼いたのをよく食べに行つた。日本人は30センチほどの鯉の塩焼きを小さい玉ねぎやトマトのバーベキュー、サラダやピクルスをパンにはさんだり手づかみでかぶりついて食べる。

また、ペイルートでは、シンガポール・クウェート作戦直前からPFLP保安部の指揮で、私たち日本人連絡所のアパートは一時閉じられた。作戦前後の警戒態勢の措置である。そして、PFLP保護下に入るように指示されて、連絡センターのアパートは不在となつてた。そこにちょうど日本からVZ58の派遣員として軍事訓練のためにTがペイルートに着いたらし

い。ちょうど作戦もはじまり、連絡先の電話にコンタクトしても、誰も出ない。彼はこのひとつの電話番号以外何も知らない。Tは日本での活動から推しはかつて、ポスターの多い所へと自力で探し回って、PLOにたどり着いたと言う。そして、そこで大通りを隔てた対面にあるPFLPの情報センター、アル・ハダフを紹介された。やっとPFLPにコンタクトできた。そこで日本人への手紙「自分は約束に合わせて来たVZ58の人間だ」というメッセージと滞在先のホテル名を残した。その結果、日本人ボランティアのDらと会うことができた。

丸岡さんが不在なら、重信に会いたいと言つたとのことで、Tもまたバグダッドに来ることになった。当時、バグダッドには、在欧の仲間のリーダーもアウトサイドワークとの共同プロジェクトで、バグダッド入りしていた。技術者も居た。

さらに、この頃、政治的には中東戦争以降、パレスチナ和平交渉をめぐって、47年国連決議にもとづいたパレスチナ分割案を認めていこうとする動きが大きくなつてた。イスラエルは国連のパレスチナ分割決議の47年ラインを認める考えはない。すでに67年以来パレスチナ全土ばかりかアラブの地も占領していた。しかし、第4次中東戦争は、戦争によってではなく、交渉によってしかアラブの地は返還されないという思いをアラブ諸国に実感させていた。相手はイスラ風の共和国

エルではなく、戦争の兵站装備情報は、アメリカと闘うことになったからである。さらに停戦交渉として、キッシンジャーの兵力引き離しシャトル外交から、ジュネーブ和平交渉が語られており、「ミニ・パレスチナ国家建設」が登場してきた。これに対して、すでに述べたように、74年2月バグダッドで、イラクパース党、PFLPなどがミニ・パレスチナ国家建設に反対して、拒否戦線を形成したと宣言した。パース党の路線対立から、シリアとイラクの対立がますます大きくなつてた時でもあつた。中東ばかりかアラビア湾岸の勢力やモロッコやアルジェリア、北アフリカの反政府勢力もミニ・パレスチナ国家反対に加わつてた。

パレスチナ解放闘争のPLOの主流は、「現実路線」と言つて、パレスチナ問題への世界での正当な認知を求め、国連への登場、交渉による和平をめざし始めていた。「現実路線」は現実的ではない。イスラエルは占領したパレスチナを返還する考えは無い」と、PFLPはそれに反対して、武装闘争を活発化していた。そうした中、私たちはPFLPから独立した自前の組織作りへと急いでいた。それがこのシンガポール・クウェート作戦後の2月から3月の時であつた。

バグダッドの家には、あれこれの仕事で来ていた日本人、アラブ人、パレスチナ人、イラク人、ラテンアメリカの友人たちが、ちょうど満1歳を迎えたメイを囲んで、誕生日を祝してくれた。

1971年・ビューフォート城から

重信 房子

レバノンの南。山頂の絶壁に立つ古城ビューフォート (注1)

いつからそこに在るのか定かには誰も知らない。

人類が空と知恵と水を神の恵みと恋ふる懐
ビューフォートは古来人々の礎として生まれた
ある時には
お伽噺の光輝く妖精の砦
ある時は

闇に呑まれた没落の宴ビューフォート城
過ぎし日は十字軍の要塞
イスラムの民に使役を科し幾千の命が
この絶壁から突き落とされたのか
谷は口をあけて敗者を待っている。

ビューフォート城1971年我らの砦

ビューフォート城解放の歌が聴こえる。
旧い塔にはカラシンコーフの列
城壁の銃眼は十字軍の賜物
谷を越えた正面にパレスチナの旗はためく。

ビューフォート城
暁闇のあとに
ひたひたと風に乗って届く光の粒子は
眼下に我が祖国パレスチナを描く。
せりあがるナクバの絶望を呑みくだして (注2)
希望の朝のようにパレスチナはそこにある。
戻れない我が祖国パレスチナ
光の粒子に笑む祖国よ
絆されたとも綱を
誰が切るものか。

ビューフォート城に南から北へ風がぬける時
パレスチナの物語が聴こえる
奪われた時と命と生活 1947年パレスチナ
殺戮を逃れて 1948年 1967年
戦争のたびに戦火より早く北上し
レバノンの地に着のみ着のまま逃れた。
一時の避難の為に帰る日を疑いもせず
大きな家の鍵を握りしめて
子を背負いパンにヤギのチーズとオリーブ
一時の避難の為に
ああもう数十年をすでに越えた。
待つことは闘うこと
祖国への帰還の夢に鍵を握りしめたまま
父も母も逝った。
パレスチナから吹きよせる風が私を誘う
豊穡のまほろばは怒りの祖国。

ビューフォート城に
北から南へと風が静かに渡る
オロンテス河からフェニキアの時を乗せて
我らの歴史を刻み謳う。
カナンへの凱旋の渴望を
我が祖国パレスチナに送る
バール神殿の数千年の祈りは
ビューフォート城を越えて
我が祖国パレスチナの大地に降る
オリーブとオレンジとジャスミンの香る大地
ああ我らのパレスチナよ。

ビューフォート城の眼下緑の5月
草原を越えて黒く細い一本道が

オリーブの林に消える
あれがパレスチナ
あれがパレスチナのオリーブの林
戻ることの叶わない故里
ヘルモン山から流れる涙の川は
我らの怒り
リタニ川から続く細い水の道に
祖国パレスチナに届く方舟のをせよう
さあ
風の共和国の指令を聴け

ビューフォート城は今
我らの誓
風の共和国の第一の障地だ。

注1 ビューフォート城 フランス語で「美しい要塞」の意味。レバノン東南部にあり、十字軍が要塞として使った。ローマ支配以前からそこにあつたらしいが、いつからかは不明。十字軍によって西欧ローマの城のようにつくりあげられた美しい城。1971年〜82年までパレスチナ勢力の砦（69年カイロ協定以来レバノン南部から被占領地パレスチナ〔イスラエル〕への潜入攻撃は保証されていた。）そこからカチューシャやロケット砲を撃つと被占領地に届いた。82年6月のイスラエルによるレバノン・ベイルート侵略時、城は空爆で破壊された。それでも頂から今も尊厳に満ちた姿を保持していた。82年から2000年までイスラエル軍がビューフォート城を砦とした。2000年5月イスラエル軍が南部レバノンから敗走撤退時、内部を爆破した。今はレバノン村民たちの手に戻っている。

注2 ナクバ 「民族の大破局」「民族の惨劇」の意味。1948年5月14日、イスラエルがパレスチナ人を追放・虐殺の上で「イスラエル建国宣言」を発した。5月15日をナクバの日、5月をナクバの月として、占領されたパレスチナを取り戻す決意を新たにす。この時は闘いが昂揚し、被占領地、難民キャンプ、国境地帯でデモ集会武装闘争がとくに行われる。

後書

東電は大量の汚染水の海洋投棄を計画していた。反発を受けて一時見合わせたが汚染水の行き場はない。放射性廃棄物の置き場もない。欲に目が眩んでえらいことに手をだしたものだ。にもかかわらずベトナムなど4カ国との原子力協定を衆参両院は承認した。「収束宣言」を専門家のほとんどが否定している。依然としてフクシマ原発は放射性物質を大気と海に吐き出し垂れ流している。東北の漁師が「除染って言うが、その水は海に流れ込むんだ」と憤然と言っていた。10年ぶりに旧友から電話をもらった。一瞬誰かの計報かと思ったがそうではなく、「さようなら原発1000万人署名」のことだった。政治には冷やかな友人だったが、東電や政治家のあまりの無責任と嘘つきぶりに、知合いに署名の電話を入れているのだという。もらった年賀状には「東日本大震災とフクシマ原発以降“愛国心”に目覚め、どんどん“右傾化”しております。涙しています。」とあった。国民投票要求の動きもあるが、正確な情報を隠された場での投票には疑義あり、などとぼくも“憂国”ぶりです。 Q

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

銀行口座 三井住友銀行 赤羽支店 226-3687269 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 109 号

- | | |
|------------------------|--|
| ① 2P6行目 | ～の <u>支配理論</u> が続いています
→～の <u>支配の論理</u> が続いています |
| ② 5P(11/25)右下から10行目 | 矯正 <u>厚生</u> に→矯正 <u>更生</u> に |
| ③ 11P左上から9行目 | ～夕陽の <u>闇</u> に→夕陽の <u>岡</u> に |
| ④ 12P左上から9行目 | <u>どんぺい</u> → <u>呑ぺい</u> |
| ⑤ 15P右上から 22行目 | <u>経済相</u> と <u>法相</u> → <u>元経済相</u> と <u>法相</u> |
| ⑥ 19P(詩のタイトル) | →1971 年(トル) |
| ⑦ 19P左下から1行目 | <u>1971 年</u> → <u>1976 年</u> |
| ⑧ 20P右(注1) ビューフォート城5行目 | <u>1971 年</u> ～82 年→ <u>1976 年</u> ～82 年 |